

論文

幾何学形態を用いた平面構成の実践

小橋 圭介

はじめに

本研究では自身の創作活動を通して、「形」の基礎的な造形力を養う事、見つめ直す事に重点をおく。モチーフの構造や特徴を考察し、「象徴化」していく行程は想像力（イマジネーション）を養うために極めて重要である。また、その想像力（イマジネーション）を表現するためには創造力（クリエイション）が要求される。それは、「絵」を描く、「想像/創造する」という「ものづくり」に対する原点回帰でもある。例えるなら、子どもが玩具のブロックを自由に組み合わせて、動物やロボットを作って遊ぶような行為に近いかもしれない。子どものように純粋に「ものづくり」を楽しむことで、研究者の内面にある「そうぞう性」を刺激し、作品へと反映させていく。作品制作によって培われた知見を、現在主担当している創作系基礎科目に組み込み実践していく。

表現技法について

具体的には、単純な幾何学形体（本研究では、○・△・□を使用）を用いた基礎的トレーニングを想定した制作を行う。各造形を制作するに辺りどのようなアプローチの仕方があるのか、そのバリエーションを検討していった。

○：角が無いので、曲線を用いた構成との親和性が高い。また、円弧であることを活かして任意の要素を回転させたような造形も得意で、そこは他2種とは異なる特徴だと言える。

△：今回使用した造形の中で唯一、構成上の「均衡」がとれていない。○は等しい距離を保った軌跡によって構成されるため均衡が取れているし、□も4点によってバランスを維持し、均衡を保っている。△の持つある種不安定とも言える「均衡」は、「動的」なエネルギーを生む。それは、他2種との差別化にも繋がっている。また、△という造形そのものが不均衡という特徴を持つため、逆に一定のリズム

を持った要素で構成することで生まれるギャップも面白い。

□：造形そのものの安定感も相まって、面の分割による構成が展開しやすいのが特徴である。あえて、曲線を多用することで面白い構成を生み出すことも出来る。

バリエーションを追加していく中で、極力「単純」な構造で造形が成立するように意識していった。何故なら、一見、要素(情報)の密度が多いものを整理していく方が困難に思われがちだが、実際には少ない要素で構成を成立させる方が、難易度が高いからである。もちろん一概には言い切れないが、往々にして手数が多い方が構成自体は容易い。また、本研究は自主作品制作であると同時に学生への課題という側面もある。線を過剰に細くしたり分割を細かくしたりといった、手数を増やしただけの小手先の技術を身に付けさせるのではなく、基本的な造形を理解しながら、どのような構成が考えられるのか手を動かしながら習得してもらうことも狙いとしている。

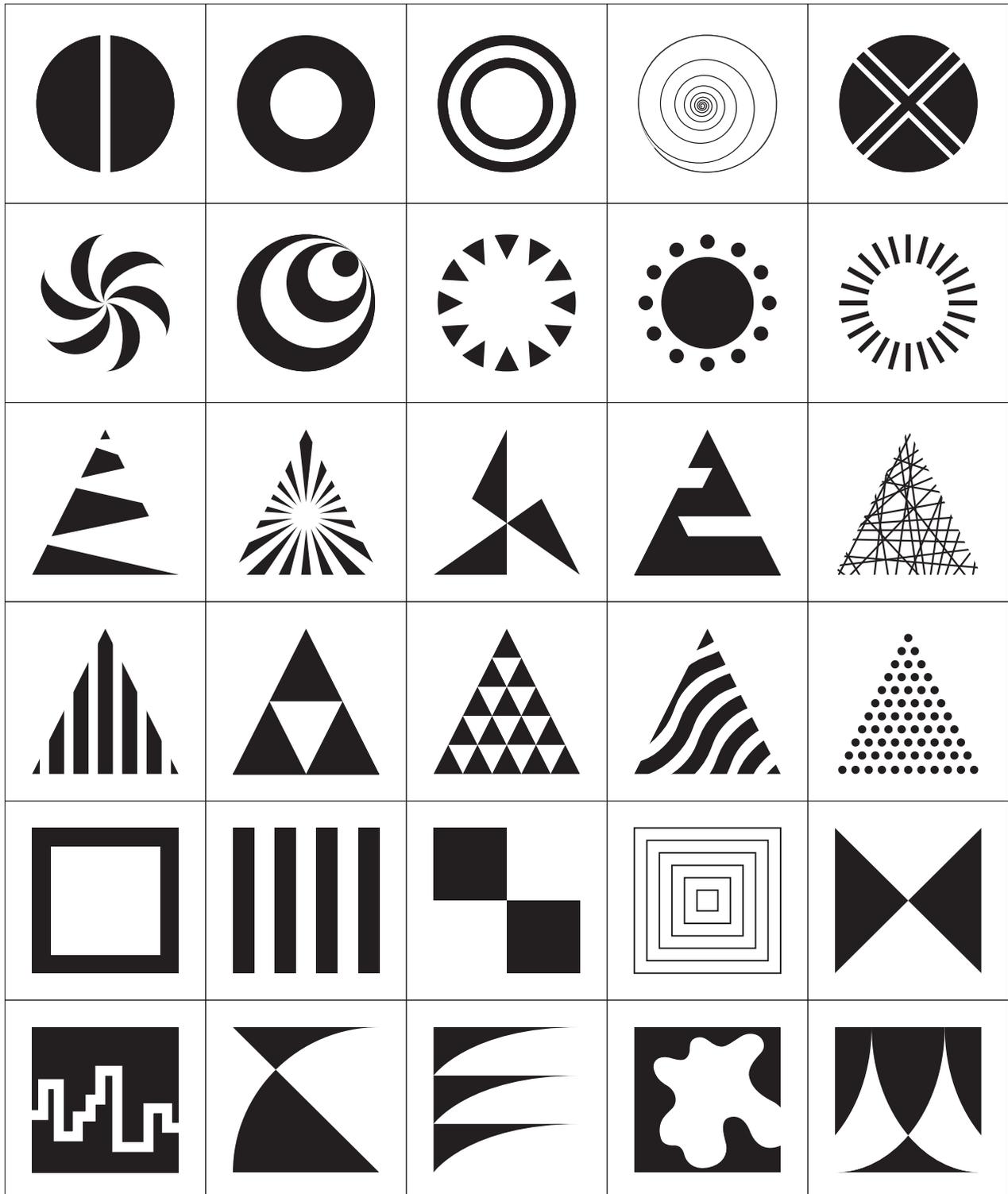
まとめ

様々なバリエーションを制作していったが、いずれの造形についてもパターンを整理していくと「①直線なのか曲線なのか」、「②定形なのか非定形なのか」、「③面なのか線なのか」といった構成で成立していることが分かる。上記の構成はもちろん単独でも成立するが、複数を合わせて造形を成立させることも出来る。これらをベースに「線の太さの変更」、「素材同士の感覚の調整」、「線と面の入れ替え」など、単純な変更を加えるだけで造形のバリエーションは簡単に増やせる。今回はコンピュータ（使用ソフト：Illustrator）を用いて制作したが、アナログ作業などへの画材の変更、「色」や「質感」といった条件も付加するととなると、制作出来る造形は相当数増やすことが可能である。

今後も制作を継続しながら、画材の展開も同時に進めていく。また、本研究と同内容のものを、「CG実習（2018年度・後期）」受講生に半期課題として提示している。学生たちによる作品の造形パターンや傾向などの整理・分類も計画している。

幾何学形態を用いた平面構成の実践

Practice of Plain Composition Using Geometric Figures



Practice of Plain Composition Using Geometric Figures

This study focuses on building, and reflecting on, basic skills to create “forms” through personal creative activities. The process of examining structures and characteristics of motifs and “symbolizing” them is essential in nurturing one’s imagination. Also, the process of expressing one’s imagination requires creativity.

To be more precise, the study took a form of a basic production training, using simple geometric shapes (○, △, and □). The study will continue to expand matière alongside production. The contents used in this study have been provided to the students as a theme. Submitted works will further be sorted and classified in accordance with the works’ formative patterns and moods.